

3

アジアの呪術・儀礼・神話

呪術や儀礼と呼ばれるものは、古代から現代に至るまで世界各地で実践されてきました。呪術や儀礼がなされる場では、神話的な背景が前提とされることもあります。そこに私たちは、当時の人々の世界観を垣間見ることができます。呪術・儀礼・神話は、現代社会のポップカルチャーでも欠かせない要素です。本講座では、アジア地域（インド、チベット、中国、日本）において観察される世界観に着目し、人間の発想というものを多様な視点から紐解いてみたいと思います。

会 場	対 面： 広島大学東広島キャンパス 文学部 講義棟2階 B204講義室 オンライン： Microsoft Teams
時 間	①13:00～14:15 ②14:30～15:45
定 員	対 面： 200 名 オンライン： 100 名
対 象	どなたでも
受講料	無料
申込方法	郵送・Web
申込期限	郵送一次申込締切： 10/20 (月) ※ 定員に達しなければ 11/12 (水) (必着) まで先着順で受付 オンライン受講申込締切 11/12 (水) ※オンラインでの受講を希望される場合はwebでの申込となります

古代インドの呪詛——運命を定める仙人たちの声

講 師： 大学院人間社会科学研究科 教授 川村 悠人

第1回

11/22 (土)

①13:00～14:15

古代インドの叙事詩には聖仙（リシ）と呼ばれる存在がたびたび出てきます。彼らは苦行をして不可思議な力を溜め込んでおり、怒らせると相手を呪う「呪詛」を発してきます。本講座では、彼ら聖仙たちが放つ呪詛の特徴を見ていくことで、古代インドにおける言葉の観念や世界の見方を紹介しつつ、それが現代文化とどのように接続しうるかを考えてみたいと思います。

チベット仏教の神秘思想——常用経典「ミクツェマ」を読む

講 師： 大学院人間社会科学研究科 教授 根本 裕史

第2回

11/22 (土)

②14:30～15:45

かつて「ラマ教」と呼ばれ、呪術的なイメージで誤解されてきたチベット仏教。しかし、その本質は呪術とは無関係で、深い智慧と合理的な思考に根ざしています。本講座では、ゲルク派で大切に唱えられる一詩節の経典「ミクツェマ」を読み解き、祈りの本質と心の平穏を求めるその思想を明らかにします。チベット仏教に初めて触れる方でも楽しめる内容です。

古代中国における次世界への思い

講 師： 広島大学名誉教授 有馬 卓也

第3回

11/30 (日)

①13:00~14:15

古代中国の人々が死後に向かう世界（次世界）に懐いていたものを、副葬品や棺桶に描かれていた画像を手がかりに紹介します。そこは神々の住まう神話的世界であり、それらの画像はその世界での福を祈る呪術的要素も含んでいました。今回は特に崑崙山や西王母の画像を通して次世界の様子を見てみましょう。

『源氏物語』と物の怪

講 師： 大学院人間社会科学研究科 准教授 小川 陽子

第4回

12/21 (日)

①13:00~14:15

『源氏物語』には物の怪が何度か登場します。とりわけ有名なのは六条御息所ですが、彼女は生霊・死霊いずれともなり、他の女性へと憑依します。誰に、いかに取り憑き、どのような結果となったのか、本講座では物語の文章を具体的に読み解いていきます。

キリシタン関係資料にみる世俗的信仰——コリヤード『懺悔録』を読む

講 師： 大学院人間社会科学研究科 教授 白井 純

第5回

12/21 (日)

②14:30~15:45

1632年にローマで出版されたドミニコ会士コリヤードによる『懺悔録』は、キリスト教徒として守るべき十戒（mandamientos）に対する日本人信徒の告解（confesión）という体裁で構成され、仏教や神道の信仰に基づく日本人の疑問や逡巡が、生々しい具体例を伴って口語で説明された資料として知られています。本講座では、『懺悔録』の十戒と関連の深いイエズス会版『さるばとるむんぢ』の本文を最新の原本調査の成果をふまえて読解し、キリスト教の宣教当時の日本の世俗的信仰について紹介します。

講座内容に関する
お問い合わせ先

人文社会科学系支援室（文） 運営支援担当

電 話： 082-424-6602

メー ル： bun-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp